

ヒメタヌキモ

Utricularia minor L.

タヌキモ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧 I 類

国カテゴリー

準絶滅危惧

選定理由

分布する池沼が少なく、改修・補修などで失われやすい。(現況:R-)

形態

茎は水底の沈殿物の中に伸び、ところどころ地中葉を泥中に出して固着する。水中葉は疎らに捕虫囊をつけ、地中葉にも捕虫囊がつく。ごく稀に黄緑色の花をつける。冬、越冬芽をつくり、本体は枯れる。

国内分布

北海道、本州、四国、九州。

県内分布

外浦区、中能登区、南加賀区。

生態など

タヌキモ類としては珍しく、水底に固着する。多年草、花期は8~9月。

生育環境

低山の池沼。

危険要因

池沼開発、水質汚濁、土地造成、自然遷移、産地局限。



白井伸和・2002年8月10日・加賀市・(花)小野ふみ糸

分布図はありません。

県内の分布